

## 園長だより 第1号 「ほめる」ということ

今日は「ほめる」ということについてお話をしたいと思います。

皆さんはしっかりお子さんをほめてくださっていますか。城東ちどり保育園では「叱って身に付ける指導」ではなく「ほめて広げる指導」を心がけています。

例えば、お散歩に出かける時、子ども達は玄関前に集合して整列します。子ども達の年齢に応じた並び方で列を整えるのですが、これがなかなか一筋縄ではいきません。当然のことです。

このような状況の中、整列させるためには、並べていない子どもに「〇〇ちゃん、ちゃんと並びなさい！」という方法もあります。でも、私たちは「〇〇ちゃんは上手に並んでいるね。」「〇〇ちゃんはしっかり先生の方を向いているね。」とできている子どもをほめて、整列を促す方法をとるようにしています。こうすれば先生がほめてくれる。こんなことをすれば先生がいいねと言ってくれる。こんなことを言えば先生は笑顔になってくれる。「ほめる」ということは子ども達に正しい価値観を育てていくことになるのです。

この「先生」という言葉を「お母さん」「お父さん」に置き換えても同じです。

こうすればお母さんはほめてくれる。こんなことをすればお父さんはいいねと言ってくれる。こんなことを言えばお父さん・お母さんは笑顔になってくれる。「ほめる」ことはお子さんの心を成長させる大切な栄養になります。

最後に効果的に「ほめる」ために気を付けることをお話ししたいと思います。

まずは「すぐにほめる」ということです。ほめるべきお子さんの言動があればその時にその場でほめてあげてほしいのです。お子さんの気持ちがまだそこにあるうちにほめるのが最も効果的です。

もう一つはお子さんの「努力をほめる」ということです。例えば、お子さんが初めて鉄棒で逆上がりができたという報告をしてくれたとしましょう。その時に「あなたは運動神経がいいね。」とほめるのではなく、「あなたは一生懸命、練習に取り組んでいたね。」という風にほめてほしいのです。そのような言葉かけを重ねていくことで、お子さんはできる・できないで判断するのではなく努力することに価値があると考えられるようになります。

この二つのポイントは今日からでも実行できます。ぜひ心がけてみてください。

今日は「ほめて伸ばす」というお話をしましたが、皆さんの中にはそれは分かったけれどなかなかほめることがないななんて考えておられる方はいませんか。もちろん、ほめてばかりはいられないというのが現実かもしれません。でも、ほめるところがないお子さんなんていないというのも真実です。皆さん自身がアンテナの感度を良くしてお子さんの行動をしっかり見てあげてください。去年の今頃できていなかったことができるようになっていたり、わがままを言わず我慢や辛抱ができるようになっていたり・・・。お子さんの頑張っていることが鮮明に見えてくると思います。

「ほめる」どうかご家庭でも今まで以上に大切にしてください。